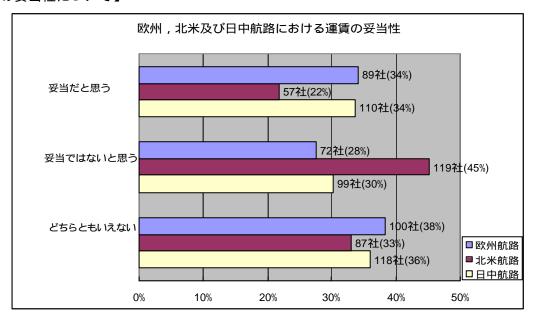
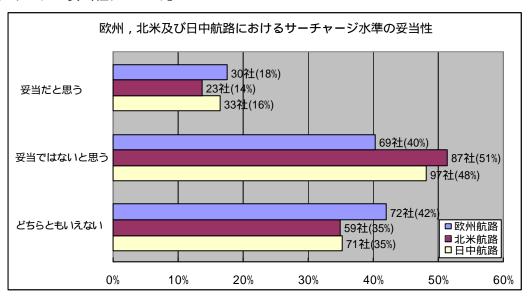
【運賃の妥当性について】



荷主アンケートによる主な理由は以下のとおり。

_	EL 11143 EE	11 312 43 86	D + 1) 25
	欧州航路	北米航路	日中航路
妥当だと思う	【34%】 ・需給バランスに連動している。 ・北米航路と比較し上昇率が低い又,距離があるにも関わらず割安感あり。	【 2 2 % 】 ・需給バランスに連動している。 ・サービスコントラクトで個々 に調整があるため独立性が感じられる。	【 3 4 % 】 ・需給バランスに連動している。 ・船社数多く一定の自由競争環 境にあると思う。 ・サーチャージは別としてフレートは安価。
妥当ではないと思う	【28%】 ・需給バランスが原因とはいえ, 往航復航の料金差が大きすぎる。 ・運賃修復の幅が大きすぎる。 売手市場で出来上がった運賃で ある。 ・値上圧力が強く一方的。荷主 としては,値上分を転嫁出来る 所がない。	【45%】 ・輸出と輸入がアンバランス。ここ3年間の値上げにより輸出の割高感が強い。 ・定期的に常に値上げがあり,値上げ幅も需給バランスの変動幅と乖離している。 ・欧州航路に比べ割高感がある。 TSA(太平洋航路安定化協定)の指針に影響されている面がある。 ・値上圧力が強く一方的。荷主としては,値上分を転嫁出来る所がない。	【30%】 ・季節,時期によって運賃変動が 過度に頻繁且つその幅も激しい。 ・他アジア航路と比較し割高,ま た往航については妥当だが復航 に関しては妥当ではない。
どちらともいえない	【38%】 ・運賃の変動はさほど大きくはない。 ・現在の市況としては,大型船 導入に伴い若干値下がり傾向にある。	【33%】 ・輸出運賃は大きく値上げされた 原因は需給以外にも輸入赤字を カバーする意味もあるのでは。 ・現在の市況としては,大型船導 入に伴い若干値下がり傾向にある。 ・サービスコントラクトにより他 社使用実績が無く比較出来ない。	【36%】 ・コスト又は,サービスの二極 化によりピンからキリまでで,なんとも言えない。 ・運賃の変動差が時に激しく判 断不可能。

【サーチャージの妥当性について】



荷主アンケートによると主な理由は以下のとおり。

	欧州航路	北米航路	日中航路
妥当だと思う	【18%】 ・最近の石油価格上昇から判断すれば,妥当。 ・環境(外的)要因であるため。	【14%】 ・最近の石油価格上昇から判断すれば,妥当。 ・環境(外的)要因であるため。	【16%】 ・最近の石油価格上昇から判断すれば,妥当。 ・環境(外的)要因であるため。
妥当ではないと思う	【40%】 ・次々と新しいサーチャージを導入。 ・バラつきが出てもおかしくないが、どの船社も同じような額であり、大手顧客とも差がある。・サーチャージの目的が不明であり、料金設定も不明確。	【51%】 ・次々と新しいサーチャージ(同時テロ後のセキュリティに関するもの等)を導入。 ・欧州航路と比較すると20%以上高い。 ・バラつきが出てもおかしくないが、どの船社も同じようなサーチャージ。 ・ピークシーズンとは思えない時期に PSS(ピークシーズン)が付課される等,不透明。 ・算出根拠が不透明。	ぎる。 ・中国側の輸出者を優遇するため に ,日本側輸入者に法外な料金を 徴収している。
どちらともいえない	【42%】 ・交渉の余地無い。 ・燃料の高騰,為替変動からコストアップ予測は可能だが,船社で吸収の可否等判断出来ない。 ・根拠が見えにくい。同盟の名残りが感じられ閉鎖的。	【35%】 ・根拠が不明確,変動要因の詳細説明が不足しているため評価困難。 ・燃料が,コストの割合のどのくらいを占めているのか不明。	【35%】 ・根拠が不明確,説明も不十分。 理解できないサーチャージが多い。